

タバコの吸い殻リサイクルで地球環境基金に寄付

「吸い殻ブリゲード」をご存じですか。2014年4月にサンタフェ ナチュラルタバコ ジャパン株式会社とテラサイクルジャパン合同会社が協働で始めたプログラムで、吸い殻を回収して携帯灰皿や堆肥、紙などにリサイクルする取り組みです。参加者には回収した吸い殻の量に合わせてポイントが付与され、地球環境基金をはじめ環境NPOに寄付できるというもの。2015年11月から三菱地所・サイモン株式会社が商業施設として初めてこのプログラムに参加し、同社が展開する全国9カ所のプレミアム・アウトレットの指定喫煙場所からの吸い殻によるポイントを全額、当基金にご寄付いただくことになりました。リサイクルの仕組みづくりに取り組むテラサイクルジャパンの西島加奈さんは「吸い殻が資源として生かされると同時に、環境保全に役立つことを喫煙者に知ってほしい」と話されました。



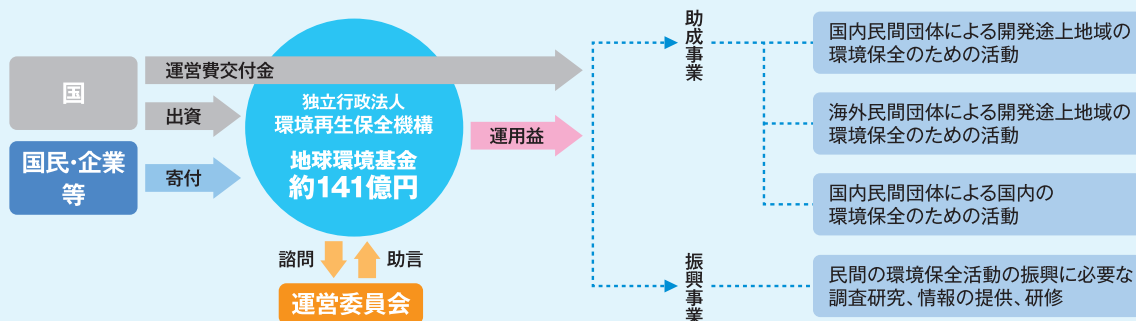
吸い殻も資源であることを呼び掛けるステッカー

お話を伺った西島加奈さん



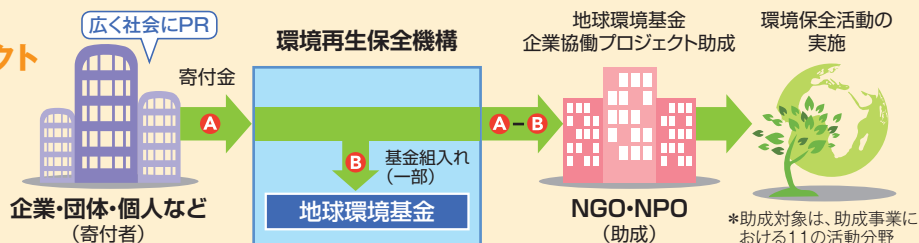
地球環境基金とは

環境再生保全機構は、国の出資金と民間からの寄付金により「地球環境基金」を設け、その運用益と国からの運営費交付金により、国内外の民間団体(NGO・NPO)が行う環境保全活動へ支援を行っています。



寄付者の貢献が目に見えるしくみ 地球環境基金企業協働プロジェクト

企業・団体・個人などからの寄付を原資に、地球環境基金が寄付者名を明らかにして、国内外の民間団体(NGO・NPO)が行う環境保全活動へ直接助成を行います。



詳細は、<http://www.erca.go.jp/jfge/kigyuu/gaiyo.html>

表紙写真

保育所での環境衛生指導

NPO法人シャンティ山口(6ページ参照)は、タイ北部で主にモン族を中心とした山岳民族の自立支援を行っています。公的機関の彼らへの支援は必ずしも万全ではありません。そこで、同団体は活動の一環として、地元公的機関に対し粘り強い交渉を重ね、モン族の子どもたちが通う施設内で、タイ人医師・専門家による定期的な健康診断や衛生環境指導を実現させました。

編集後記

40号では「世界で活躍する日本の環境NGO・NPO」をテーマに、現地のニーズに合った支援などさまざまな取り組みをご紹介します。現地に行ったからこそ知り得た先祖伝来の伝統文化から学ぶことの重要性など、生の声をお伝えできれば幸いです。